



從三位勲三等男爵毛利五郎

敘勲件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十四年十二月二十三日

内閣總理大臣子爵加藤高明



内

閣

準備

めくれず

賞勳局第二四五號

閣勅第六三三

大正十四年十二月三十一日
十二月三十一日

大正十四年十二月三十一日 内閣書記官

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁



從三位勲三等男爵毛利五郎儀ハ明治三十年七月貴族院議員ニ當選シ爾來毎回膺選シテ現ニ其ノ職ニ在リ在職二十有八年終始立法府ニ參與シ多年議政ノ為竭セル功勞尠カラズ又明治三十二年防長教育會ニ入りテ評議員兼主事トナリ之ヲ經營ノ事ニ方リ銳意育英事業ニ力ヲ致シ

賞勳局

就中山口高等商業學校並ニ山口高等學校ノ創立ニ際シテハ同會ヲシテ土地建物等多額ノ寄附ヲ為サシメ以テ之ヲ建設ヲ容易ナラシム其他財團法人福田會ノ主腦トシテ多數孤貧兒ノ教養ニ努メ殊ニ世界大戰後露國過激派ノ大虐殺ニ遭遇シタル波蘭國民ノ孤兒數千名ノ一部ヲ米國ヘ輸送ノ途次滿一ケ年ノ間ニ於テ前後三百五十餘名ヲ收容シ或ハ關東地方大震災當時離散セル兒女ノ收容保護ニ盡カシ

タル等教育及社會事業ニ貢獻セル功
績洵ニ顯著ノ者ニ候處目下病氣危
篤ノ趣ニ付此際特ニ勲二等ニ叙シ瑞
寶章ヲ授ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

賞
勲
局

裏
面
白
紙

大正十四年十二月二十二日

内閣總理大臣子爵加藤高明



賞勲局總裁宇佐美勝夫殿

申 牒

從三位勲三等男爵毛利五郎、明治三十年七月
貴族院議員ニ當選シ爾來毎回膺選シテ

今日ニ至ル迄在職二十有八年終始立法府ニ
參與シ豫算案竝法律案等ノ重要案
件ノ審議協賛ニ當リ傍ラ官有財産調
査會委員狩獵調査會委員帝都復
興院評議會評議員及國有財産調査會
委員等ノ職ヲ奉シ其ノ功勞夥カラズ現ニ
本人ハ貴族院議員ノ職ニ在リ多年議政
爲ニ竭セル功績顯著ナル者ニ候處目下病
氣危篤ノ趣ニ付前功ニ依リ此際特ニ勲ニ
等ニ敘レ瑞寶章下賜ノ義詮議相成度

功績書

貴族院議員 従三位勲三等男爵 毛利五郎

右ハ資性溫良恭謙ニシテ志操堅實事ヲ処スルニ堅忍不倦 英國ニ留學スルト前後二回 明治三十年七月貴族院議員ニ當選シ爾來左職ニ十八年ニ亘リ幾多ノ法律案並豫算案ノ審議協賛ノ任ニ當リ其ノ功績尠少ナラサルモノアリ 更ニ同人ハ平素愛郷ノ念ニ厚ク僻鄙ノ小村ト雖モ不學ノ人無カラシメテトシ念トシ明治三十二年

文部省

公爵毛利元昭ノ統裁ニ俾ル防長教育會ニ入リテ評議員兼主事トナリ親シク縣下教育界ノ狀況ヲ視察シ其ノ中等學校ノ規模概ネ狭小在學生徒ノ數モ寥々タルモノニシテ僅ニ學校ノ形態ヲ存スルニ止リ其ノ教育ノ實効モ亦隨テ舉ラズ加フルニ一般縣民ニシテ財政上ノ關係ヨリ其ノ子弟ノ爲ニ學資ヲ投シテ上級學校ニ就學セシメ得サルモノ多キヲ識リ或ハ私財ヲ施ケ或ハ寄附ヲ募リ以テ會ノ基金ノ増大ヲ圖リ會ノ基礎ヲ鞏固ニシ其ノ事業ヲ隆盛ナラシメ以テ

縣下教育ノ振興ニ資スル所アラントシ専心努力
スル所アリ

抑モ防長教育會ハ明治十九年ノ創設ニ懸
リ高等學校令ノ發布セラルヤ會ノ經費ヲ以
テ山口高等中學校ヲ設立シ又明治三十年
九月本會ヲ縣下五中學ニ土地建物並
金四萬壹千円ヲ寄附シ同三十八年四月山口
高等商業學校ノ設立セラルヤ其ノ土地建物
書籍器具標本等及金九萬五千円ヲ寄
附シ大正六年山口高等學校ノ設ケラルヤ金

文 部 省

二十萬円ヲ寄付シタリ

又會ハ一方ニ於テハ基金百十二萬五千円シ
有シ縣下ノ有為ナル子弟ニ對スル學資貸
與又ハ授業料ノ補助等ヲ行ヒ其ノ恩澤
ニ依リテ成業シタル有爲ノ人物寥カラス

凡ソ斯ノ如ク防長教育會ノ基礎ヲシテ今日
ノ域ニ達セシメ又其ノ事業ノ着々トシテ效果ヲ擧
ゲ来リ將來益々盛ナラントスルモノアルハ同人カ直
接間接ニ會ノ經營ノ事ニ當リ拮据勉勵
多年ニ亘リテ倦マサリシニ依ル所極テ大ナリシ

結果ニシテ其ノ教育事業ニ関スル功績眞
ニ録スヘキモノアリト謂ハサルヘカラス

文
部
省

大正十四年十二月二十二日

文部大臣官房秘書課長

大正十四年十二月二十二日
文部大臣官房秘書課長
朱印

内閣總務課長殿

依頼

貴族院議員男爵毛利五郎敘任敘任
ノ儀ニ付別途貴族院ヨリ上奏有之ヲ元
當省閣件、同人印續書別紙送付ス可

然
以
計
其
方

大正八年終結ヲ告ケタル世界大戰ノ渦中ニ投ジ最
モ憐シムヘキ波蘭國ハ其國独立ノ榮譽ヲ贏テ得タ
リト雖西刺亞亞頭ニ散在スル多大ノ該國民ハ彼ノ
露國解離ノ非運ニ伴ヒ過激派ノ大虐殺ニ相遇ニ數
千無告ノ孤兒ヲ産ミ成スノ慘狀ヲ呈セリ此等孤兒ノ一
部ヲ在米同國民ノ過キ同情ノ手ニ委託スル為メ輸
送ノ途中本邦通過ノ必要上其便宜ト便船待合中ノ
滞在トヲ同國政府ヨリ本邦外務省ヘ懇囑サレタルニ依
リ我カ外務省ハ之レヲ日本赤十字社ニ一任サレタル事ヨリ
コト同社ハ我カ福田會ノ建物ノ一部ヲ利用シ收容所ニ

司
法
省

充テニコトラ依頼サレタルニ依リ本會ハ之レヲ快諾スル事ト
ナリ茲ニ本會ハ世界的救濟事業ヲ援助スルノ好機ヲ得タリ
即チ大正九年七月二十三日六十一名來着收容ヲ始メトシテ
大正十年七月八日六十二名出發スル迄前後滿一ケ年三百五
十餘名收容ノ便ニ供セリ

毛利男爵ハ右事業ニ付財團法人福田會名譽顧問
トシテ終始盡心サレタルモノニシテ右事業力極メテ滿
足ナル成果ヲ擧ゲタルハ專ラ男爵ノ功ニ依ルモノナリ

財團法人福田會
事務理事 北城 戒 定

明治三年六月一日
明治三年戰役際
報國、旨意以三
島陸軍予備病院、有
志其向患者、回品寄
附候、設弁特候、并為
其膏木杯、一箇、候事

年号	月	日	任	爵	別	麻名
明治	五月	八日	出發英國留學			
明治	三月	十六日	父元德ヨリ資金三萬圓ヲ分與シ別ノ持者ヲ以テ被列華族			
明治	四月	一日	依父元德勲功特授男爵			
明治	五月	五日	叙從五位			
明治	三月	七日	更ニ三年間留學許可ニ至年五月迄			
明治	七月	十日	歸朝			
明治	六月	三十日	貴族院議員當選	男爵五選		
明治	十月	九日	叙正五位			
明治	九月	三日	貴族院議員當選	男爵五選		
明治	三月	十六日	手青森縣下罹災者へ金拾圓敘恤候			
明治	三月	四月	武藏國南多摩郡八王子			
明治	三月	七月	叙從四位			
明治	三月	七月	議院任期終了			
明治	三月	七月	貴族院議員當選			
明治	三月	七月	叙從四位			
明治	三月	七月	明治三十七年戰役、際報國ノ旨意ヲ以テ			
明治	三月	七月	恤兵費へ金二百圓寄附候叙奇持ニ候			
明治	三月	七月	條其賞トシテ木杯一組下賜候事			
明治	三月	七月	叙勲四等授旭日小綬章			
明治	三月	七月	明治三十七年事件、功ニ依リ勲四等			
明治	三月	七月	旭日小綬章ヲ授テ賜フ			
明治	三月	七月	明治三十七年戰役、際報國ノ旨意ヲ			

大正 元年	七月九日	以廢兵及軍人遺族救護、爲金二百三十圓、並出征軍人家族遺族及廢兵救護、爲帝國軍人援費會ヲ經テ金五百圓寄附候設テ持テ爲其貴銀杯一組下賜候事	貴族院
大正 元年	七月十日	任期終了	
大正 元年	八月一日	議員當選	
二年	七月十日	明治四十五年勅令第五十六號、旨ニ依リ韓國併合記念章ヲ授ルル	貴族院
二年	七月十日	敘正四位	
四年	十月十日	大正四年勅令第一五四號、旨ニ依リ大禮記	
五年	四月一日	念章ヲ授ルル	
五年	四月一日	敘勳三等授瑞寶章	
五年	四月一日	大正四年事件ノ功ニ依リ勳三等瑞寶章ヲ授テ賜フ	
七年	七月九日	議員任期終了	貴族院
七年	七月十日	議員ニ當選	
八年	二月十日	授旭日中綬章	
八年	二月十日	多年貴族院議員ノ職ニ在リテ勳ヲ不勤依リ旭日中綬章ヲ授テ賜フ	貴族院
十年	二月六日	官有財産調査會委員被仰付	
十年	二月六日	大正四年乃至九年事件ノ功ニ依リ金杯一箇ヲ賜フ	
十年	七月十日	敘從三位	宮内省
十年	五月三十日	狩獵調査會委員被仰付	内閣
十年	十月十八日	帝都復興院評議會評議員被仰付	月
十年	四月十九日	狩獵調査會官制發止	
十年	九月八日	狩獵調査會委員ヲ囑託ス	農商省
十年	七月九日	議員任期終了	
十年	七月十日	議員ニ當選	

八月廿七日 國有財產調查會委員被仰付

貴族院